

スマート農業導入によるイチゴの高品質生産

要約

- ・スマート農業技術を活用した栽培環境の見える化と、適切な環境制御を推進。
- ・環境制御に対する生産者の認識が向上し、‘古都華’品質を持続的に向上する土台が形成。
- ・得られた情報に基づいて、‘古都華’高品質生産指針を作成。

現状(背景)と課題

- ・若手生産者を中心に良食味が特長のイチゴ‘古都華’の生産が増加
- ・栽培技術が未熟な生産者も多く、品質のバラツキが発生、高位平準化が課題
- ・スマート農業技術を活用した栽培環境の見える化と環境制御の適正化が品質の向上に有効

目標

- ・リアルタイム環境モニタリング導入 3名(R1)⇒16名(R4)
- ・‘古都華’高品質生産指針の作成

活動内容

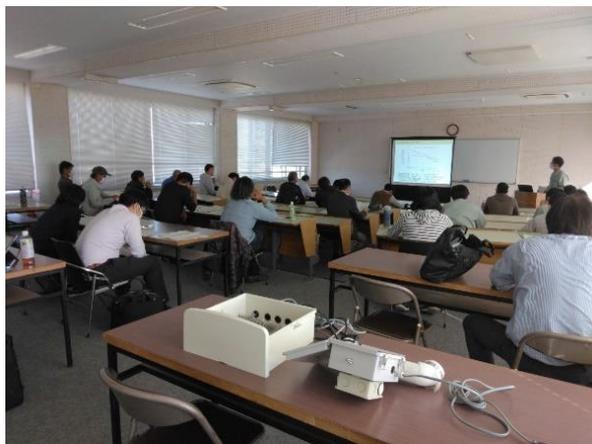
- ・リアルタイム環境モニタリング展示圃の設置
- ・環境制御研修会の開催
- ・環境モニタリングデータを活用した環境管理指導
- ・モニタリング実践圃場における果実品質・生育調査
- ・情報収集、指針作成

成果

- ・リアルタイム環境モニタリング装置の導入生産者が3名(R1)から16名に増加
- ・環境制御の重要性に対する生産者の認識が向上し、環境制御が適正化
- ・‘古都華’高品質生産指針が完成



環境モニタリング装置



環境制御研修会



‘古都華’高品質生産指針

普及活動のポイント

- ・‘古都華’ 最大の特徴「優れた食味」に関連付けた取り組みにより、生産者の関心を喚起
- ・研修会や巡回指導を通じ、環境制御を考えるベースとなる植物生理についての理解の促進に努めることで、モニタリングや環境制御に対する生産者の意識を向上
- ・ICT ベンダーの協力を得ることにより多くの生産者がモニタリングを体験、併せてモニタリング装置のカタログを作成・配布することで、モニタリング装置の導入を推進

対象の変化

- ・モニタリングや環境制御の重要性に対する生産者の認識が向上
- ・植物生理に基づき合理的な環境制御や栽培管理を実践

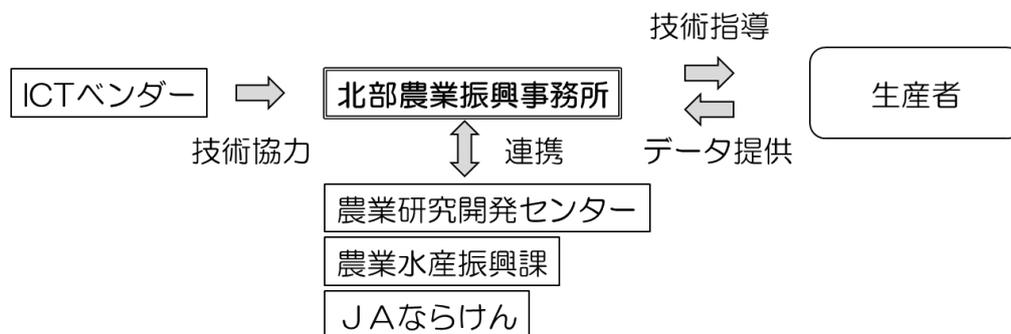
対象者からのコメント

- ・栽培環境の見える化・生産者間でのデータ共有の取り組みを通じて確実に品質が改善
- ・植物生理について学ぶことで、これまでの管理の問題点や改善方策を明確に認識

これからの活動ビジョン

- ・高品質生産指針に基づき、モニタリングの導入推進とデータに基づく適切な環境制御の実践を推進
- ・品質や生産性の向上に向けて生産者間でデータに基づいて議論する環境の整備を支援
- ・より高度なスマート農業技術である統合環境制御装置の導入を検討する生産者に対する技術支援

活動体制



用語解説

環境モニタリング

作物の生育に関わる環境要因（温度、湿度、CO₂濃度など）を環境測定装置により測定し、環境データを計測・記録すること。クラウドサービスの利用により、スマートフォン等でリアルタイムにデータを確認できる。



リアルタイム環境モニタリング（クラウド画面）